

令和2年度企業版ふるさと納税を活用した事業の概要

<p>事業名</p>	<p>ひとづくりを軸とした持続可能な地域づくりプロジェクト (ますだ暮らし定着支援事業)</p>
<p>取組内容</p>	<p>【ますだ暮らし定着支援事業助成金の交付】 本市の人口は、進学や就職をきっかけに若者の都市の流出が続いている。そのため、幼少期からのふるさと教育やキャリア教育の推進など、子どもから大人までふるさとへの誇りと愛着を持つひとを育てるとともに、地元で定着する人やUターン者を増やしていくことが必要である。</p> <p>⇒安定したますだ暮らしの実現及び益田市への定着を図るため、益田市内で新規就業したUターン者及び新規学卒者に対して助成金を交付した。</p>  <p>益田市公式サイトでの制度周知</p>
<p>成果</p>	<p>令和2年度 ますだ暮らし定着支援事業助成金交付件数 令和3年3月8日現在 86件 ※内訳 Uターン 48件 新規学卒者 38件</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin-left: auto;"> <p>令和2年度交付件数：92件 内訳 Uターン：52件 新規学卒者：40件</p> </div> <p>主な就業先 医療機関、社会福祉法人、建設業など</p>
<p>今後の事業展開</p>	<p>新規採用職員研修会等に出向くなど、制度の更なる周知を行うとともに、引き続き対象者に助成金を交付し、益田市への定着を図る。</p>

令和2年度企業版ふるさと納税を活用した事業の概要

<p>事業名</p>	<p>ひとつづくりを軸とした持続可能な地域づくりプロジェクト (ひとつづくり推進事業)</p>
<p>取組内容</p>	<p>【益田版カタリ場】 中学生と大人による原則1対1の対話を通して、「これまでの人生と、これからどうありたいか」自分自身の生き方について考えることで、自分の「心に火を灯す」授業を実施した。</p> <p>【高校生期のライフキャリア教育（教育魅力化コーディネーター）】 高校生の学校外での活動づくりや、高校と地域・企業・行政をつなぐコーディネーターを配置し、以下の取組を行った。 ・益田高校課題探求授業コーディネート業務 ・明誠高等学校キャリアサポート（高校生が地域活動（公民館活動）を通して多世代、多様なひとと関わる活動）の伴走</p> <p>【JAFこころのプロジェクト夢の教室】 日本サッカー協会に所属する元アスリートや現役アスリートが自分の夢を実現するためにどんな事をしたか、また挫折や悩んだ時にどのようにその苦勞を乗り越えたかをオンラインを通じて小学生に伝えた。</p> <p>【関係人口の創出（私立高等学校魅力化補助金）】 益田市の私立高校には、約250名の県外生が在籍している。特にこの県外生を対象とした地域活動を実施することで、卒業後も第2のふるさととして益田市と関わり続ける人材（関係人口）の確保へつなげた。具体的には「食」をテーマとしたコンテンツづくりや交流の場の創出を行った。 （益田東高等学校） ・シェフと食アドバイザーを講師とし、農作物に関する講義を実施するとともに、地域住民との交流（会食）を行った。 （明誠高等学校） ・益田市出身のデザイナー・地域プロジェクトプランナーと協働し、益田市の食と文化の記録活動を実施した。（まちと食卓vol2の作成）</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>益田版カタリ場</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>JFAこころのプロジェクト夢の教室</p> </div> </div>


令和2年度企業版ふるさと納税を活用した事業の概要

<p>成果</p>	<p>●定性的効果 変化が激しい現代、私たちが見ることができない未来を生きていく子どもたちに対し、変化に臆することなく、自分の人生を能動的に生きる力を養うことにつながった。（ライフキャリア教育の推進につながった。）</p> <p>●定量的効果 【益田版カタリ場】 ・13小学校、8中学校、3高校で実施 ・対話した延べ人数1,270人（R元年度：1,190人）</p> <p>【JAFこころのプロジェクト夢の教室】 実施校：12校 児童数：363人</p> <p>【関係人口の創出（私立高等学校魅力化補助金）】 活動への参加者数：455人 うち、県外出身者数：221人</p> <p>【成人式での新成人アンケート結果】 「一度は市外に出たとしても、将来益田で暮らしたい」と答えた割合 カタリ場実施前52% ⇒ カタリ場実施後71%</p>
<p>今後の事業展開</p>	<p>持続可能な地域づくりのためには持続可能なひとづくりが不可欠である。本事業の成果として子どもたちの変容を述べたが、事業に関わる大人（多世代）側の変容にも注目すべきである。多くの団体等で後継者不足・次世代育成が叫ばれる中、本事業を通じ、まずはこうした取り組みに参加していただくことからはじめ、ひいては参画者として次世代の地域づくりを担う人材の育成につながるよう、意識して取り組みたい。</p>

令和2年度企業版ふるさと納税を活用した事業の概要

<p>事業名</p>	<p>ひとづくりを軸とした持続可能な地域づくりプロジェクト (小規模校合同学習実施事業)</p>
<p>取組内容</p>	<p>【小規模校4校合同宿泊研修】 市内4校の小規模校の5・6年生が、県立少年自然の家で2泊3日の宿泊研修を実施した。カレーライスづくりやキャンプファイヤー等の活動を通して、児童自身が成長できるよい機会となった。</p>   <p>【小規模校オンライン交流】 小規模校6校で、オンラインを活用して、交流学习や授業を実施した。(宿泊研修の事前交流や6校合同全校縄跳び大会、6校合同高学年の道徳の授業の実施)</p>  
<p>成果</p>	<p>小規模校同士のつながりが広がり、学年で1人だけの学校も同級生の友達が増え喜んでいた。また、積極的に他者とかがわれるようになってきた。 小規模校の児童が実際に集合して活動することを通して自尊感情を高めることができた。また、小規模校の児童の挑戦する気持ちが、市内において低い傾向が見られたが、交流等を通して、改善されてきている。 A小学校の挑戦する気持ちの数値 6年生(学力調査の意識調査から) R1: 63.6% (4月実施) ⇒ R2: 85.7% (5月実施)</p>
<p>今後の事業展開</p>	<p>本事業により購入したICT機器を活用した交流を継続し、児童の自尊感情や挑戦する気持ちを高めていきたい。また、修学旅行等も合同で実施する予定にしている。主な活動として、①合同修学旅行 ②オンラインでの合同行事や合同授業の実施 ③オンラインで他校(市内・市外・県外)や他の施設とつながりを広げる。</p>

令和2年度企業版ふるさと納税を活用した事業の概要

<p>事業名</p>	<p>自転車を活かしたまちづくりプロジェクト</p>
<p>取組内容</p>	<p>1. 道路への案内サインの設置（100ZEROコース） 国内外から益田市に走りに来たサイクリストの方が迷うことなくコースを走ることができるよう案内サインを設置。</p> <p>・令和2年度施工 案内サイン：36ヶ所 ブルーライン：182m （13か所）</p> <div data-bbox="924 427 1297 853" data-label="Image"> </div> <p>設置した道路案内サイン</p> <p>2. サイクルスタンドの設置 高津川流域材を使用した木製サイクルスタンドと鉄製サイクルスタンドを製作し、益田市サイクリストサポート企業（市内郵便局等）に設置。</p> <div data-bbox="408 1122 876 1458" data-label="Image"> </div> <p>この部分に  株式会社 テライ のロゴマークが入る。</p> <div data-bbox="1010 1305 1353 1559" data-label="Image"> </div> <p>高津川流域材使用のサイクルスタンド</p> <p>鉄製サイクルスタンド</p>
<p>成果</p>	<p>・100ZEROコース116km上に案内サインを36ヶ所、ブルーラインを13ヶ所設置し、サイクリストが気軽に走ることのできる受け入れ環境の整備を行った。 ・木製サイクルスタンド3基、鉄製サイクルスタンド5基製作し、サイクリストが気軽に休憩できる受け入れ環境の整備を行った。</p>
<p>今後の事業展開</p>	<p>・本事業により新設した案内サインやサイクルスタンドのPRに力を入れ、さらなるサイクリスト誘客につなげる。 ・サイクリングマップの増刷・・・益田市のロード環境をPRし、国内のサイクリストの誘客を図るためのツールとして平成30年度に作成したサイクリングマップを増刷する。 ・サイクルスタンドの製作設置・・・益田市に自転車で走りに来られたサイクリストの方が気軽に休憩できる環境を整えるため、サイクルスタンドを製作設置する。</p>